

2025年6月9日20時頃の出来事



数分後、乗っ取られた画像が他の知人から送られてきて、事態の状況を知る



再開発事業「わくわく感を」

函館「棒二森屋」跡地

学生団体。ポスター考案しPR

JR函館駅前で営業していた百貨店「棒二森屋」跡地を囲う壁に3日、跡地の再開発事業を紹介するポスターがお目見えした。学生団体「ISARIBI with（イサリビ ウイズ）」の活動で、デザインも学生が考案した。「ポスターを見た人がわくわくする気持ちになればうれしい」と期待している。

ポスターはA1判で4 ぞろ皆さまにおはようを枚作成。着物姿の女性や 言えるかも」とのメッセージの絵とともに「ボー ーじと、再開発事業の簡ニさんとよばれたこの場 単な説明を入れた。所は、今はすやすやねむ 実施したのはイサリビ っております でもそろ ウイズの「活きる空きブ

旧棒二森屋の再開発事業を紹介するポスターを貼る名畑さん（奥）と三浦さん



ロジェクト（12人）。昨年4月に活動を始め、市内の古民家のシャッターに絵を描くなど地域の魅力創出に取り組んでいる。代表の北海道大学大学院博士後期課程3年名畑公晴さん（27）はプロジェクトの立ち上げ当初から棒二森屋跡地で何かしたいと考え、再開発組合に企画書を提出。ポスターデザインも自身が考えた。

3日は名畑さんと北海道教育大函館校2年三浦なす菜さん（19）が市内の看板製作会社の協力を得て4枚を丁寧に貼った。名畑さんは「棒二森屋の歴史はまだ続いていく。『新しくなる』という期待感の持てる情報を伝えたい」と話した。

棒二森屋は2019年に閉店。跡地を巡っては、再開発組合が29年5月の開業を目指し、ホテルや商業ビルなど4棟を新築する計画を進めている。

（鹿内朗代）